

守谷高校だより 「道徳」ゲストティーチャー 講演会 十一月十五日（木）



命の大切さを学びました。

ゲストに 平沢保治 先生を迎えて

11月15日（木）の6時間目、1年生240人の集まる体育館に、「道徳」のゲストティーチャーとして、平沢 保治（ひらさわ やすじ）先生をお迎えしました。



平沢保治先生

国立ハンセン病資料館運営委員・語り部、前多磨全生園入所者自治会会長、東村山市身体障害者患者連絡協議会副会長を務めています。

先生は、昭和2年（1927年）茨城県古河市に生まれ、14歳のとき多磨全生園に入所しました。

現在に至るまで、ハンセン病にまつわる偏見、差別と闘い、元患者の人権回復のため運動を続けています。



先生は、自らの人生を振り返り、「生きていくことは簡単じゃない。でも辛さに堪えられる人間になってほしい。」と語りかけ、私たちに生きる力を注いでくれました。



講演のあと、花束を感謝の気持ちと共に送ることができました。もうすぐ92歳になる先生が、私たちのため、遠路はるばる長時間をかけてお越しくたださるだけでなく、ハンセン病の哀しい歴史を踏まえて、自らの生きる姿を見せていただき、大変感動いたしました。



お帰りの際、先生は多くの生徒たちと握手を交わし、「がんばれ」と言わんばかりに、差し出された手を強く握りしめていました。

生徒の感想

- ・命の大切さや差別がいけない事だとあらためて感じました。
- ・昔の日本で、このような差別があったことを、ご本人から聞いて驚いたし、心が痛んだ。
- ・当たり前のことが、当たり前に行えることが、どれだけ幸せなことなのか見つめ直すきっかけとなった。
- ・自分は、不幸だなんて思っている人たちが、ちっぽけだと感じました。
- ・苦しいことがあっても、自分の幸せを願ってくれる人がいる限り、命を大切にしていきたい。